

軽度外傷性脳損傷仲間の会

活動内容

当会の目的

軽度外傷性脳損傷、
脳しんとう、脳震盪後症候群の
周知活動

学校教育現場での事故再発防止

国の保障制度の改正

患者の支援

訴えたい内容

軽度外傷性脳損傷のガイドラインの
作成
(国際基準に準拠すること
＝画像ではなく
神経学的診断によるものとする)

国民に対する周知を徹底し、
軽度外傷性脳損傷、脳しんとう、
脳震盪後症候群の予防をすること
(学校・スポーツ現場等の監督者への
PocketScat等の携帯義務化)

各都道府県に、支援拠点病院を置くこと
(すでに全国に高次脳機能障害の
支援拠点病院があることから実現容易)

労災、自賠責の後遺障害の認定基準の
改正

調べても見つからない症状に
出会ったら？
貴方なら、解決に向けて
正しい道を見つけられるだろうか？

「軽度外傷性脳損傷」は欧米では、糖尿病患者と同じ数に匹敵するだけの患者が発生しているのが現状です。外傷性頸部症候群(むち打ち)で発症しやすく、日本では軽症に軽視されがちで、詳しく診ていただけていないのが現状であります。発生時から、2週間ほどの安静と、ビタミン等の点滴で、「軽度外傷性脳損傷」にならなくて済むか、その症状は軽くなるのです。

しかし、現在、医師の中でも、その術を知らない、浸透していないのが現状です。さて、軽度外傷性脳損傷とはどう言う所で起こるのでしょうか？

- 1、交通事故での、追突が多く、その他でも発生します
- 2、乳幼児の揺さぶられっ子症候群でも発生します
- 3、ホットショット(ラグビー競技等での強い衝撃でも発生します)
- 4、小学生など、顔面などにボールが当たった衝撃でも発生します
- 5、階段の転落事故でも発生します
- 6、自宅での転倒でも発生します

ACRMより抜粋

一部の患者は自分の症状を自覚せず、認めず、正常な機能を復活させようとする。そのような場合は、軽度の外傷性脳損傷のための事例を再検討し直す必要がある。軽度の外傷性脳損傷は、もっと衝撃的な損傷(例：整形や脊髄損傷等)を考えた場合に、見落とされることもある。これらの症候群は、以前は軽度の頭部外傷、脳震盪後症候群、外傷後症候群、外傷性頭痛、脳損傷後症候群、心的外傷後症候群と見なされていた。

今、考える時
安心して暮らすために
そして彷徨う人達を救うため

軽度外傷性脳損傷や脳しんとうのほとんどはCTやMRIには写りません。だから症状がいつまでも改善しなければ、不定愁訴、心因性、詐病とみなされることが多くあります。交通事故や労働災害の場合は、保険会社から打ち切りを迫られます。また、多くの学校事故は事実解明を放棄し同じ失敗を繰り返し、またその事実を隠蔽しようとしています。現実には何も改善していない自分がおり、授業について行けない!成績が下る!友人や取引先での人付き合いが下手になった!業績も落ちる!何も出来ない!結果、家に引きこもる、解雇をされる。責任と保障は何处へ?家族の理解も乏しく、復学や復職も上手くいかない。適した治療も出来ない。最悪、家庭が崩壊へ…。『あの時自分が死ねばよかった』それが被害者の声です。

最後に

現在、私達は、そんな悩みを抱えている方々の橋渡しと致しまして、微力ながら、インターネットを通じ、医師の紹介、弁護士や社労士の先生の紹介などをしながら、今まで、苦しみ続けられた方が、正しく診断を受られるための病院の紹介や検査機関への連携をおこなっております。しかし、限界があります。どうか、ご理解と、国への基準の改正、医師への正しい診断基準や画像主義の賠償のあり方を一連して正しい道へとお導き頂けないでしょうか?その入り口を作って頂けないでしょうか?どうかお力をお貸しください。

軽度外傷性脳損傷仲間の会